

## 津波・浸水対策 「不十分」と指摘

徳大病院で講演会

徳島大学病院の防災上の課題などを語る講演会が30日、徳島市の同病院であり医師や看護師ら約200人が耳を傾けた。

同大大学院の中野晋教授が院内設備の点検結果結果を踏まえて講演。南海地震への備えが求められる中、「発信装置はしっかりしているが、津波や浸水への対策が不十分だ」と指摘した。東日本大震災で被災した東北大

学病院の状況も説明し、患者と職員的安全確保やライフラインの安定供給などの必要性を話した。

災害支援報告会もあり、医師と看護師、薬剤師の3人が、宮城真石巻市の万石浦中学校での活動を振り返った。震度5の余震を経験した渡辺浩良医師は、停電や断水が続く中での治療の難しさを紹介したほか「精神面のケアは同じ医師が継続することが望ましい」となご話した。(大塚康代)